広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	映像教材を使った日本語教育についての考察
Author(s)	盧, 亨旻
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集 , 16期 : 88 - 93
Issue Date	2002-03-29
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00038893
Right	
Relation	

映像教材を使った日本語教育についての考察

盧　亨　旻

Ⅰ．序論

２１世紀を迎えて日ごとに変わってゆく世界の中で、私たちはいろいろなものに接しながら生活を送っている。数年前までは家の電話か、公衆電話だったのがポケットベルに、またポケットベルからケータイ電話に、と変わって行く中で最近は小学生までもケータイを持っていると言われるほどケータイが普及し、人々の生活に欠かせない必修品になっている。またテレビやビデオからブロードバンドを利用したインターネットの普及などといった数多くのマルチメディアの発展によっていつどこでも簡単に様々な情報を手に入れられるようになったということがそのいい例になるだろう。これらは今は生活の中で当たり前のように使われているけれど、わずか５年くらい前までは考えにも及ばなかったことだったのである。このようなマルチメディアの急速な発展はいろいろな意味で無数の可能性を秘めている。その可能性は日本語教育にも言えることである。しかし、韓国での日本語教育（日本語教育とは日本人にとっての国語教育とは違って外国人を対象にするものである。ここではその中でも韓国だけに対象を絞ることにする）は未だにほとんど本を中心に行われていてマルチメディアの活用といっても日本語の会話授業用として作られたカセットテープやビデオテープくらいに留まっている。それでこのレポートではマルチメディア、その中でも映像を日本語教育の教材として活用する方法について考察することを目標とする。

Ⅱ．本論

私たちは生活の中でいろんな映像物を見ながらいろいろなこと、例えば楽しさや悲しさという感情的なこととか生きる中で役に立つ情報などを得ている。これは逆に言えば私たちはその映像物に多くの影響を受けていることになるのである。ここで韓国の日本語学習者達に日本の映像を教材として使うことは日本語だけではなく、形式の同一さからくる親密感、つまり、興味の持ちやすさと内容での違い、つまり、価値観とか、文化、習慣などの差といったものの勉強までできる可能性を持っているのである。

本論では映像のなかでもアニメ、ドラマ、ニュースを中心に、それらの長所と短所を把握し、日本語学習者のレベルに応じどのような映像を教材として使用すべきか考察する。また映像を使う時の字幕や台本の使用についても考察することにする。

(1) アニメ

日本のアニメは韓国で昔から輸入され、放送されていたこともあって、接するに抵抗を感じるほど異質感を感じないのである。それは年齢とかによって違って来ることかもしれないが、日本、または日本語に関心を持って勉強しようとする人たちの年齢がだんだん下がることを考えると問題にはならないだろう。むしろ、アニメとかが好きで日本語を習おうと思う人さえいる。アニメはそれほどの魅力を持っている。

１．長所と短所

アニメの長所として最初に考えられるのは、それを見る人にきれいな絵や想像を絶する内容で興味をもたらし、おもしろさを与える事である。このような興味やおもしろさは人をアニメにものすごい集中力で熱中させる力を持つ。またこの集中力が授業への効率に繋がることになる。

二つ目は、声優の声である。アニメを生き生きとしたものにするのがこの声優の役目である。そういうわけで声優の声はとてもきれいである。そのため、声優の声は学習者にとってとてもやさしく、聞き取りやすい声になるのである。

三つ目は、教える側から見て、授業時間の都合に合わせて使い分けやすいことである。アニメには宮崎駿監督の作品のように１ー２時間で終わる映画みたいなものもあればちびまる子ちゃんのよう毎週テレビでやっているが、登場人物だけ同じで内容的な繋がりがあまりないもの、機動戦士ガンダムのように長編にわたって内容がつながっているものなど活用し方しだいでよりどりみどりに選ぶことができる。

でも、このようなアニメも日本語の教材として使おうとする時、短所とも言える限界があるのである。アニメの特性上、日本の日常的なことを描いたものよりファンタジーやロボットなどを素材としたのが多く、内容上、言葉以外に直接に日本と結びつけられる事物が少ない。それだけではなく、そのようなアニメに出てくる言葉でも実際にはない言葉、つまり、アニメの中でしか存在しない言葉や悪口なども堂々と使われている。またこのことは声優の問題とも繋がる。声優の声自体はきれいであるけど、アニメの中でキャラの特徴として変な話し方を使用する。これらによって正しい日本語よりは良くない日本語を覚えてしまう恐れがある。

２．活用できる学習者のレベルとその方法

アニメを日本語の教材として活用する場合、一番いい学習者のレベルは初級者である。学習者にアニメを使うことで日本や日本語への関心を持たせることができ、日本語の能力上昇への努力に繋がるという効果が考えられる。つまり、聞き取りなどの練習というレベルの勉強ではなく、アニメを見た後、みんなでアニメの内容について話し合うとか、感想文の作成などのことをさせることで、学習者に興味を持たせるのがアニメを活用すること

の一番いい方法ではないかと思う。むしろ、聞き取りなどを通してよくない、または間違った日本語を覚えてしまう恐れがあるからである。

(2) ドラマ

ドラマは日本でもそうだと思うが、韓国では国民的なジャンルである。それほど日本語学習者が接しやすいということになる。これはアニメをまだ子供が見る物でレベルが低い映像という見方が残っている韓国では一番日本語の教材として適しているかもしれない。

１．長所と短所

長所を考えてみると，一つ目は、現実的な内容である。つまり、ありそうな感じでストーリーが展開されるということでドラマの主人公と自分を重ねて感じやすいということで、アニメとは違う意味での興味を持ちやすいということである。

二つ目は、ドラマが日常生活を描くだけに、描かれている状況を把握しやすいということである。つまり、正確に台詞をが聞き取れなくても登場人物の行動などを見て、どのような状況であるかだいたい想像が付き、理解できるということである。

三つ目は、ドラマで出てくる会話は日常生活での会話とあまり変わらないということである。ドラマはそれが属する社会のいろいろな面を反映している。よって日本で実際使われている生きた言葉や表現などを学ぶことができる。また文化という面で、韓国と似ているところからは、逆に状況把握を通して台詞の推察をし、聞き取り能力を高め、異なるところからは、韓国との文化や習慣などの差を説明することによって日本についての理解を深めることができる。

以上のことを長所としてあげることができる。これに対して短所と思われるのは、

一つ目は、韓国ではドラマというジャンル自体はなじみがあるが、そのドラマに出てくる日本の俳優達はあまり知られていないということである。顔もあまり知らない上、劇中の名前も慣れていない日本語の名前であるので、内容を正確に理解できず、興味を失う恐れがあると思われる。

二つ目は、言葉の問題である。まず、俳優の声がアニメの声優の声とは違って発音が正確ではないこと。つまり、状況などでだいたいの意味はわかるとしても正確な意味までは把握できないということがありうる。また、ドラマで出てくる俳優達が全部標準語を使うのではないということ。方言を使う人物がドラマの中で登場した時、言葉は聞き取れたとしても単語は辞書に出てないし、文法も違う場合が多いため、ほぼ理解できないということもありうるのである。

三つ目は、ドラマは長編だということである。短いものでも９編はあるから授業での活用が難しく、中途半端に終わってしまう恐れがある。

２．活用できる学習者のレベルとその方法

ドラマの場合は、中級者と上級者向けだと思われる。もちろん、アニメのように関心を持たせることにも活用できるが、それより日常生活で使われる会話などという文法的な勉強とか、聞き取りの練習、状況別に日本人が取る行動のパターンの理解など、本格的に日本語の勉強に活用できるのである。つまり、堅い文法的な表現が載っている本からやさしい表現が出てくるドラマに変えることによってもっと日本を身近に感じるという効果が予想できる。

(3) ニュース

ドラマが社会の一面を描いた物ならニュースは社会で起きたいろんなことをそのまま伝えてくれるものである。もちろん、事件事故だけではなく天気予報やいろいろな情報も伝えてくれる。このようなニュースは現代人にとって、もはやなくてはならないものである。

１．長所と短所

ニュースの長所を考えてみると次のようである。

一つ目は、正確な標準語で、正確な発音である。いろんな映像物があるけれど、ニュースでアナウンサーが言う日本語が一番正確である。これはもちろん情報を正確に視聴者に伝えるためである。だから、このような正確な発音は日本語の学習者にとっては最適な模範になるものである。

二つ目は、日本で実際起きている事件事故などという現地事情がわかるのである。ドラマなどから日本の文化や習慣がわかるようにニュースからは経済、政治に関しての情報を得ることができる。また、それらに対して日本人がどのように思っているのかも知ることができる。

また、短所は次のようである。

一つ目は、話をするスピードがとっても速いということである。また、ニュースという形式から話し方も会話とはまったく違ってとっても堅いので実際より早く聞こえるように感じてしまって聞き取りにくい。

二つ目は、内容上、難しい言葉が出てくる上に、アニメやドラマとかとは違って無表情なアナウンサーの言葉だけで、またはそれに資料画面が加えるだけでニュースが進める場合がほとんどであるので単語単位では聞き取れても全体的に理解できないということが生じる場合がありうる。

２．活用できる学習者のレベルとその方法

ニュースは、上級者向きだと思われる。ニュースのアナウンサーが読む記事の聞き取りの練習、また、聞き取りだけでなく、記事の内容を要約し、それをまた日本語で述べるこ

とでどれほど理解しているのかがわかるとともに学習者同士で議論することによって、自分だけの意見を持たせることが出来る。つまり、日本語の勉強だけに止まらず、日本に対して自分の視覚を持たせることが望ましい。

(4) 字幕や台本の使用について

日本語教材として映像を使う場合、字幕や台本がない映像を使うのがベストだと思う。しかし､そのままでは日本語学習者が十分に聞き取れなくて理解できない場合とか､また､それによって先生の説明時間の増加といった、映像を利用するという趣旨とはほど遠くなることもありうる。だから、上で述べたような映像の長所と短所を考えるのも重要であるが、字幕や台本をどう生かして活用するのかも重要である。それでここでは字幕や台本をどう使うべきかについて簡単に考えてみることにする。

１．韓国語で訳された字幕

韓国語で訳された字幕の使用はあまりよくないと思われる。これを使った場合、学習者のレベルが高いか、低いかは関係なく、思わず目が字幕の方に行ってしまう。そうなると日本語は全く聞こえなくなるのである。そういうわけで日本語の勉強にはほとんど役に立たないと思われる。この字幕は、日本語をあんまり知らない初級の日本語学習者に対し、日本語及び日本についての関心やさまざまな知識を養うことに利用できると思う。

２．日本語の字幕

日本語の字幕は、今では日本のテレビなどでも普通に使われているのを見ても視聴者に伝えたいことを聴覚だけでなく、視覚的にも表現することによって正確に伝えることができるように、日本語の教育にも活用できると思われる。これを使うことによって得られる効果としては、字幕と一緒に映像をみることによってはっきり聞き取ることができる。それとともに正確な意味の把握も容易にできると考えられる。

３．台本

台本の場合は映像を見ながら使うより映像とは別に使った方がいいと思われる。映像を見る前に台本を読んで内容についての理解を深めるとか､声を出して読む練習などをして、あとで実際映像を見て比べてみるとか、みんなで配役を分けて演じてみるなど発音やイントネーションの練習に活用できると思う。

Ⅲ．結論

少しながら、映像を日本語の教材に使うことについて考えて見た。最近、韓国で映像を使って授業をやっている所が増えている。また、インターネットなどでいろんな媒体、例

えば歌の歌詞などを活用して日本語を学ぶというホームページもいっぱい存在している。でも、問題なのはそれらのほとんどが日本語学習者にただ日本語に関心を持たせるくらいのレベルで、内容的にはあまり推薦できるものではないということである。いまだ映像などのマルチメディアをレベルが低い文化だという意識が韓国人に残っているからかもしれないが、これらを活用するという工夫があまりないのである。もちろん、本を使った勉強は必要だが、本だけでは急速に変わる状況に対応しかねるのである。つまり、マルチメディアの活用はもはや必然とも言える時期になったということである。これからもっといろいろなものを活用する日本語教育を通してもっと実際に使われる日本語に近づけることが望ましいことなのではないかと思う。そういうわけで、これからもマルチメディアを活用した日本語の教育について研究したいと思う。